

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

## 東日本大震災1周年記念礼拝説教(新地町にて)

2012年3月11日(日)

首座主教 ナタナエル 植松 誠

昨年3月11日午後2時46分に起きた大震災から今日でちょうど一年が経ちました。悪夢のような、と言うよりも、悪夢そのものであったあの震災から一年。忘れよう、忘れたいと思っても、あの震災によって引き起こされた大惨事の情景は、繰り返し繰り返しフラッシュバックのように私たちの脳裏に鮮やかに浮かび上がってきます。一年前、日本中の人々がテレビを通して映し出される大地震の被害、そしてそれに続いて広範な海岸線を襲った大津波から目を離すことが出来ず、日本中が、いや、世界中が、現実とは到底思えないほどの惨事に呆然とし、時間の経過とともにそれは大きな嘆きと悲しみが変わっていきました。大震災1周年を迎え、どのテレビ局でも特集番組が組まれていて、私もいくつもの番組を見ました。その中で、特に大地震で激しく揺れる情景や、大津波が襲ってきて家屋などが流されていく映像が映し出される前に、これらの映像が人々、特に被災者や子どもに及ぼす悪影響について注意を喚起するテロップが表示されているのを見て、ことの深刻さを改めて感じました。被災地から遠く離れた地に住む私でさえ、この一年間は精神的、心理的にかかなりのストレスの中にあつたこと、そして、すぐイライラしたり、涙が溢れたりという不安定な状態が続いていることを思いますと、実際に大地震や大津波に襲われた被災地にあつては、人々の心と身体の傷や悲しみがどれほど深く、いつまでも癒えるものではないということは想像するに難くありません。

今、私たちが大震災1周年記念礼拝をお捧げしているこの地でも、多くの方が亡くなられました。まだ行方不明になったままの方もいらっしゃる。多くの方が愛する家族や友人を失い、また住み慣れた家を流されました。福島第一原発の事故により、立ち退かされ、避難をされている方々もおられます。財産や仕事、生活の基盤を奪われた方々、仮設住宅や親戚・知人宅で不自由な生活を強いられている方々も、この礼拝にいらっ

## □会議・プログラム等予定

(3月25日以降および  
前回報告以降追加分)

### 2月

29日(水) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会〔仙台〕

### 3月

28日(水) ~ 30日(金) 新任「人権」研修会〔狭山〕

29日(木) 正義と平和・憲法プロジェクト

### 4月

3日(火) 管区共通聖職試験委員会

3日(火) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会〔仙台〕

5日(木) 会計監査

11日(水) ウィリアムズ主教記念基金  
会計監査

11日(水) 正義と平和委員会〔京都教  
区センター〕

13日(金) 書記局会

17日(火) 原発事故と放射能に関する  
ワーキング・グループ〔京都  
教区センター〕

18日(水) 神学教理委員会

18日(水) ナザレ修女会の修道生活を  
支える会

19日(木) 58-13 常議員会

20日(金) 宣教協議会実行委員会

23日(月) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会〔仙台〕

24日(火) 主事会議

26日(木) 青年委員会〔中部教区セン  
ター〕

### 5月

7日(月) 第2回聖公会平和協議会  
実行委員会

8日(火) ウィリアムズ主教記念基金  
運営委員会〔立教大学〕

15日(火) 正義と平和・沖縄プロジェク  
ト〔沖縄〕

21日(月) 書記局会

22日(火) ~ 24日(木) 第59(定期)  
総会〔聖公会センター〕

29日(火) ~ 30日(水) 人権担当者会  
〔牛込聖公会聖バルナバ教会〕

(次頁へ続く)

4月6日(金) は受苦日のため、管区事務所業務を休みます。

しゃっていることと思います。直接被災していない私にとって、今日、この地での1周年記念礼拝に立つことは、何かとても申し訳なく、身のすくむ思いであるというのが正直な気持ちです。

(前頁より)

<関係諸団体会議等>

4月26日(木) 日本キリスト教連合会総会、  
常任委員会〔ルーテル市谷  
センター〕

私はこの礼拝を逝去者記念礼拝として、亡くなられた方々を追悼し、神様のみ腕の中での魂の平安を祈る目的で、今日ここに参りました。特に、磯山聖ヨハネ教会の信徒で亡くなられたイサク三宅實さん、スザンナ三宅よしみさん、グレース中曾順子さん、また教会関係者である三宅みさのさんを憶えて、魂の平安のため、ご家族に神様からのお慰めがありますように祈り、またこの4人のご生涯を通して人々に与えられた神様の豊かなお恵みを感謝したいと思います。

被災者の方々にとって、それぞれの置かれている状況によってずいぶん違うであろうと思いつながりながらも、それでも、「生きる」ということがいかに大変なことか、また大きな生活の重荷を負っておられるかを思われます。そして、その被災者が、ご家族の、あるいは身近な大切な人を失っておられるとしたら、もうそれは筆舌に尽くし難い苦しみと悲しみを負うことになるでしょう。

昨年、この大震災が起きたために、多くの人の命を、その方々の人生を見送ることとなりました。人数に数えられていない胎児もたくさんいたことでしょう。私は、今日、1周年の日を迎え、改めて亡くなられた方々の魂に思いを馳せます。その方たちの魂の平安を祈る者として、私自身が向き合わなければならないのは、やはり「死」そのものだと思うのです。キリスト教徒として、ただきれいごとだけで魂の平安を祈るのではない、そうであってはならない……。今まで自分が信じ、人々に伝えようとしてきた復活の信仰に、私自身、本当に喜びと希望をもって生きているであろうかと。正直なところ、愛する人を亡くして悲しむ方々を慰める力にはありません。この大震災によって亡くなられた方々の、その死に至るまでの肉体の苦しみを想像す

ればするほど恐ろしさに震えます。九死に一生を得た人にとっても、黒い波に呑まれた恐ろしい記憶に、また、その中で愛する人を助けることができなかったという悔やんでも悔やみきれない思いに、これからどれほど苦しみ悩まされることになるのでしょうか。それは、生きている中でも、「死」の影を背負っていくことを意味するのかもしれない。

ただ、そのような中でも、私は、「死」に勝利されたキリストを伝えることしかできないのです。十字架上での完璧な贖罪によって、すべての人が「罪の死」から解放されたことを、そして、甦りの初穂としてのキリストの復活に私たちすべての者が与るということを。

この震災によって亡くなられたお一人お一人は、この礼拝で祈られるように、確かに魂の平安が与えられ、神様の御国で安らいでいらっしゃることを信じ、ただただそのことをお伝えしたいのです。この世で愛した人々、家族、楽しいこと嬉しいこと、これからの夢や希望……。それらすべてを残したままで去らなければならない人々の無念さも、きっと主のみ前で、この世に残る皆さんのための執りなしの祈りに代えられていることと信じます。私たちは亡くなられた方を偲びます。思い出を語り合います。その方の死に至るまでの苦しみに涙します。しかし、そこから私たちは毅然と立ち上がるのです。それは決してその苦しみや悲しみを忘れることではありません。それを克服することでもありません。亡くなられた方の死をその身に帯び、泣きながらも生きることの苦しさに従順に従うことです。キリストはすでに死に打ち勝っておられるからです。

この大震災で愛する人を亡くされた方々、皆様

の寂しさはつのも、これからの生活に希望を持ってない、暗黒のトンネルから抜け出せない状態が、これからも続くことでしょう。心が弱り果てるのを感じるかもしれません。でも、そこから毅然として立ち上がるのです。キリストが死から生命に復活なさって生きておられるからです。

この残酷な大震災に意味というものがあるのかどうか、今の私にはわかりません。確かに、このような震災は起きてほしくなかった、起きるべきではなかった。しかし、この一年、その大きな傷跡に、神様のみ手が確実に触れてくださり、今日、私たちはここに集まっています。被災者の方々の間には、怒りと恨み、呪いの言葉が渦巻いていてもいいはずなのに、私がお会いする被災者の多くの方から返ってくるのは、「ありがたく

て・・・」という感謝の言葉でした。十字架に架けられたキリストの手足の傷から流れ出る血によって私たちが生かされたように、この大震災によって犠牲になられた方々、被災された方々の流された血と涙によって、この国の多くの人々は、真実に大切なことに向き合わなければならない心を取り戻しつつあるように思われます。

私たちの生活、人生、生命、そして魂は、すべて尊い犠牲の上に成り立っているのです。私たちは人の痛みや涙を食べて生かされていると言っても良いでしょう。そのことに真摯に向き合い、謙遜にひれ伏すことから、私たちは毅然とした新しい一歩を歩みだす、今日をその記念の日にしたいと思います。



---

## 神の苦笑

今年の大齋節、皆様はどのような課題を持って過しておられるのでしょうか。最近、ひよんなことから思いを巡らすことがありました。私は今いくつかの課題を心に持ちつつ、毎日、旧約聖書を2章、詩編を1編、新約聖書を1章と通読をしています。それは、神の呼びかけ・問いかけについて、聖書にある様々な祈りについて、幸いということについて、神の怒りについて、あなたの信仰があなたを救うということについて、などなどです。そんなことを考え、み言葉を味わっている時に、神は苦笑されることも多いのではないかと、思ったのです。

私たちは祈りを通して願いを神に求めます。そして、願いは聞かれると、私たちは信じています。祈りは叶えられると、確信しています。

そう思うとき、意義深いいくつかの話しが伝え

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

られていることに気づき、自らを振り返ってみたいと思いました。

その一。昔あるところに、ぜいたくの限りを尽くし、あらゆる尊敬を受けていた一人の人がいました。その人が死んで天国に着くと、その人を割り当ての家に案内するために、一人の天使が送られました。二人は素晴らしい邸宅をいくつも通り越していきました。人はそれを通り越す度に、これが私に与えられた邸宅に違いないと考えました。

天国の大通りを過ぎて郊外に近い場末に来ると、そこにはずっとずっと小さな家が点々としていました。とうとう端まで来ると、そこに山小屋よりもまだ小さい一軒家がありました。「あれがあなたの家です」とガイドの天使が言いました。

「なんですって、あれですか!」と人は思わず叫びました。「あんな家には住めませんよ。」「お気の毒ですが。」と天使は言いました。「でも、あなたが送ってよこしたもので建てられるのは、これが精一杯なんです。」

その二。ある人が死んで天国に行きました。ペトロが天国の門で待ち構えていて、天国を案内してくれます。美しい家々、御使いたちの合唱など素晴らしいものに紛れて妙な建物があるのに気づきます。人は中を見てみたいと頼むと、ペトロは躊躇します。「中に何があるのかは見ないほうがいいですよ。」とペトロは答えます。なぜ、天国に秘密があるのだろう、あの中にはどんな素晴らしいものがあるのだろう、と人は思いました。案内が一通り終わってもまだそのことが頭を離れず、あの建物の中を見せてほしいと再び頼みます。ペトロはしぶしぶ扉を開きます。人は急いで中に入ると、床から天井まで並んだおびただしい数の棚で、どの棚にもすべて赤いリボンで結ばれた白い箱が、きれいに積み重ねられていました。「この箱にはどれも名前が書いてあるぞ。」と人はつぶやきました。そしてペトロのほうを振り返って、「私のもありますか。」と聞きました。

ペトロがうなずくと、人は自分の名前のある棚に急ぎました。見つけると急いでリボンを外して中を見ました。そして、人は深いため息をつきました。そこに見たものは、自分が地上で生きているうちに望んでいたものでした。それは、神が与えようとしていたものでした。でも、彼はそれを求めなかったのです。

その三。一人の男が夢を見ます。彼は死んで遠いところにいます。そこはとても快適な感じがします。ちょっと休憩してから彼は呼びかけまし

た。「ここに誰かいますか。」すぐに白い衣を着た人が出てきて尋ねます。「何をご希望ですか。」「何かもらうことが出来ますか。」「何でもあなたのご希望のものを差し上げられます。」「では、何か食べるものを持ってきてください。」「何を召し上がられますか。ご希望のものは何でもございます。」

彼はほしかったものをきちんと運んでもらい、それを食べて眠り、素晴らしい時間を過ごしました。それから演劇を見たいと所望すると、それも見せてもらえました。こうして彼は望むものすべてが叶えられるのです。しかし、ついに彼はそれに飽きてしまいました。

彼は白い衣の人を呼びよせて言います。「私は何かしてみたいのですが。」「申し訳ありません。それこそ、ここであなたに差し上げられない唯一の事柄なのです。」

そこで男は言います。「私は吐き気を覚える。私は飽き飽きした。それなら、むしろ私は地獄にいるほうがましだ。」すると白い衣の人が叫び声を上げて言いました。「いったい、あなたはどこにいるかと思っていたのですか。」

「あなたに欠けているものがまだひとつある。持っているものをすべて売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」

(ルカ18:22)

「求めなさい。そうすれば、与えられる。」

(マタイ5:7)

「いかに幸いなことか 主を畏れる人 主の戒めを深く愛する人は。」(詩編112:1)

神が苦笑なさっている姿と共に、これらのみ言葉・聖句が響いてきます。大齋節を過ごす中で、黙想の一つに加えてみようと思いました。





## □常議員会

第58(定期)総会後第12回 3月15日(木)  
 <主な決議事項>

1. 宗教法人「日本聖公会中部教区」規則一部変更の件(責任役員会決議)一承認
2. 日本聖公会管区事務所管理人規程一部変更の件(責任役員会決議)一承認
3. 首座主教海外出張の件 一承認
  - (1) 大韓聖公会釜山教区主教按手式 [2月18日(土)、朴 東信(パク・ドンシン)被選主教]  
 出張先:韓国 プサン、期間:2月17日(金)～18日(土)
  - (2) 香港聖公会西九龍教区主教按手式 [3月25日、アンドリュー・チャン被選主教]  
 出張先:香港、期間:3月23日(金)～26日(月)

次回常議員会

4月19日(木)

## □主事会議

第58(定期)総会期第21回 3月22日(木)

1. 海外研修補助申請に関して  
 京都教区からの申請を承認。
2. 「アジア・太平洋地域平和・和解資金」に関して  
 第2回聖公会平和協議会(2013年4月開催)のために当該資金から約550万円を使用することを常議員会に提案する。
3. 「日本聖公会聖歌集・略解」政策援助金支出に関して  
 (継続協議として保留)
4. 2011年度管区一般会計決算に関して一検討、承認
5. 2013年・2014年度管区一般会計予算案に関して一検討、承認
6. 管区事務所提案の総会議案に関して一確認

次回以降の会議

4月24日(火)

## □訂正とお詫び

前号(第267号)「第1回U26集会の報告」で、「横浜教区から青年担当小林司祭・松井司祭…」とありますが、正しくは「松田司祭」でした。お詫びして訂正いたします。

## □各教区

## 北関東

・聖職按手式 4月14日(土)10時半 北関東教区志木聖母教会 説教:司祭 秋葉晴彦 司祭按手:志願者 執事ダビデ斎藤徹

## 東京

・第118(定期)教区会 3月20日(火)9時～17時 聖アンデレ主教座聖堂・聖アンデレホール

## 沖縄

・聖職按手式 3月20日(火)10時半 沖縄教区主教座聖堂三原聖ペテロ聖パウロ教会 説教者:司祭 小林祐二(横浜教区) 司祭按手 志願者:執事イサク岩佐直人

## □神学校

## ウイリアムス神学館

・入学礼拝 4月11日(水)11時 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 司式:高地敬主教 説教:吉田雅人司祭 入学予定者:〈本科生〉ペテロ金山将司(北関東)、パウロ窪田真人(横浜)、かんひょんじゆんテモテ姜 炯俊(横浜)、パウラ麓 敦子(京都)、パウロ歳實 勲(神戸)〈教区派遣科目聴講生〉セシリア大岡左代子(京都)、エレナ古本みさ(京都)



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 きつかわ たかし パウロ吉川 孝 (北海道教区・退職司祭) 2012年3月18日(日)逝去(80歳)

## 公 示

日本聖公会第59(定期)総会を下記のように招集します。

本総会の会期中に、沖縄教区主教選挙を行います。

救主降生 2012年2月20日

日本聖公会総会議長  
主教 ナタナエル植松 誠 ㊦

記

日時 2012年5月22日(火) 午前9時30分  
から5月24日(木) 午後5時30分まで

場所 日本聖公会センター(東京教区牛込聖  
公会聖バルナバ教会)  
162-0805 東京都新宿区矢来町65番地

以上

## 第59(定期)総会代議員

北海道	聖職	コルベ下澤 昌	ヘレン木村夕子
	信徒	ベテロ石塚正史	マリヤ神谷順子
東北	聖職	ヤコブ八戸 功	フランシス長谷川清純
	信徒	ヨハネ小貫晃義	ベテロ渡部和夫
北関東	聖職	サムエル輿石 勇	エレミヤ・パウロ木村直樹
	信徒	マルコ谷川 誠	パウロ横川 浩
東京	聖職	パウロ佐々木道人	ヨハネ山口千壽
	信徒	パトリック山田益男	アブラハム松田正人
横浜	聖職	マルコ河崎 望	シモン長野 睦
	信徒	ダビデ倉石 昇	テモテ中林三平
中部	聖職	テモテ土井宏純	アシジのフランシス西原廉太
	信徒	クリスティーヌ池住 圭	アンデレ日野忠市
京都	聖職	ヨハネ黒田 裕	テモテ宮嶋 眞
	信徒	エリザベス伊藤美佐子	ルカ川村寿一
大阪	聖職	施洗者ヨハネ山本 眞	ベテロ岩城 聡
	信徒	シラス長野泰信	フランシス佐野信三
神戸	聖職	ヨハネ芳我秀一	パウロ上原信幸
	信徒	インマヌエル大東康人	パウロ宮永好章
九州	聖職	テモテ山崎貞司	マルコ柴本孝夫
	信徒	ハンナ東美香子	ヨセフ秋山献之
沖縄	聖職	ヨハネ戸塚鉄也	ダビデ上原榮正
	信徒	イレーネ高嶺初子	アンデレ富本盛彦

第59(定期)総会期書記 2012年2月20日付任命

書記長 司祭 鈴木裕二(東京)

書記 司祭 小林祐二(横浜)、司祭 片山 謙(横浜)、司祭 松田 浩(横浜)、執事 斎藤 徹(北関東)、執事 倉澤一太郎(東京)、聖職候補生 平岡康弘(北関東)

## 《人 事》

## 北海道

司祭 フランシスコ飯野正行	2012年4月8日付	網走聖ペテロ教会及び北見聖ヤコブ教会牧師、また紋別幼稚園チャプレンの任を解く。
	2012年4月9日付	聖マーガレット教会牧師に、また網走聖ペテロ教会及び北見聖ヤコブ教会の管理牧師に任ずる。
司祭 ヨハネ池田 亨	2012年4月8日付	札幌キリスト教会副牧師の任を解く。
	2012年4月9日付	新札幌聖ニコラス教会牧師に任ずる。
主教 ナタナエル植松 誠	2012年3月31日付	札幌キリスト教会管理牧師の任を解く。
	2012年4月1日付	小樽聖公会管理牧師に任ずる。
司祭 ベテロ大町信也	2012年3月31日付	小樽聖公会管理牧師の任を解く。

	2012年4月1日付	室蘭聖マタイ教会及び有珠聖公会管理牧師に任ずる。
	2012年4月8日付	聖マーガレット教会牧師の任を解く。
	2012年4月9日付	札幌キリスト教会牧師に任ずる。
執事 サムエル吉野暁生	2012年4月9日付	網走聖ペテロ教会及び紋別聖マリヤ教会での協働聖職に任ずる。
司祭 ラザロ雨宮大朔	2012年3月31日付	定年により退職とする。
	2012年4月1日付	網走聖ペテロ教会、北見聖ヤコブ教会、紋別聖マリヤ教会(紋別幼稚園を含む)での嘱託司祭を委嘱する(委嘱期間1年)
司祭 ジェローム大友正幸	2012年4月1日付	小樽聖公会での嘱託司祭を委嘱する(委嘱期間1年)
司祭 ダビデ藤井八郎	2012年4月1日付	函館聖ヨハネ教会及び今金インマヌエル教会での嘱託司祭を委嘱する(委嘱期間1年)

### 東京

聖職候補生 ジョン・ストーゼンバック	2012年1月31日	聖職候補生の認可取消 聖オルバン教会勤務解任
司祭 シモン・ペテロ上田憲明	2012年2月14日	浅草聖ヨハネ教会管理牧師解任
	2012年3月31日	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂牧師解任
司祭 ケビン・シーバー	2012年3月31日	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂副牧師解任
	2012年4月1日	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂牧師任命
司祭 フランシス下条裕章	2012年2月14日	主教座聖堂付を解く
	2012年2月15日	浅草聖ヨハネ教会牧師任命
	2012年3月31日	浅草聖ヨハネ教会牧師解任
	2012年4月1日	立教女学院出向命令
聖職候補生 ヨセフ太田信三	2012年2月27日	目白聖公会への実習勤務命令
執事 アンデレ小野里俊一	2012年3月31日	定年により退職、聖アンデレ教会勤務解任
	2012年4月1日	聖アンデレ教会嘱託委嘱(但し無給、任期1年)
司祭 マッテヤ大森明彦	2012年3月31日	八王子復活教会牧師解任 聖公会八王子幼稚園チャプレン解任
	2012年4月1日	浅草聖ヨハネ教会牧師任命
司祭 バルナバ菅原裕治	2012年3月31日	滝乃川学園聖三一礼拝堂チャプレン解任
司祭 ジェームス須賀義和	2012年3月31日	東京聖十字教会牧師解任
	2012年4月1日	八王子復活教会牧師任命 聖公会八王子幼稚園チャプレン任命 滝乃川学園聖三一礼拝堂チャプレン任命
司祭 パウロ佐々木道人	2012年3月31日	立教女学院出向を解く 神愛教会管理牧師解任
	2012年4月1日	神愛教会牧師任命
司祭 セラピム高橋 顕	2012年4月1日	東京聖十字教会牧師任命

司祭 ペテロ井口 諭	2012年3月31日	神田キリスト教会管理牧師解任
司祭 アンデレ橋本克也	2012年3月31日	神田キリスト教会副牧師解任
	2012年4月1日	神田キリスト教会牧師任命
司祭 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸	2012年3月31日	三光教会管理牧師解任
	2012年4月1日	三光教会協力司祭任命
司祭 ニコラス中川英樹	2012年3月31日	三光教会副牧師解任
	2012年4月1日	三光教会牧師任命
司祭 アタナシオ佐々木 庸	2012年3月31日	東京聖マルチン教会管理牧師解任
	2012年4月1日	東京聖マルチン教会協力司祭任命
司祭 パウロ中村 淳	2012年4月1日	東京聖マルチン教会管理牧師任命
執事 トマス日高馨輔(退)	2012年4月1日	聖アンデレ教会囑託委嘱(任期1年)
司祭 ビカステス今井烝治(退)	2012年4月1日	聖アンデレ主教座聖堂囑託委嘱(八王子地区ミッショナー)(任期1年)
司祭 イサク小笠原愛作(退)	2012年4月1日	小笠原聖ジョージ教会囑託委嘱(任期1年)
司祭 テモテ小笠原 忍(退)	2012年4月1日	聖アンデレ教会囑託委嘱(任期1年)
司祭 テモテ河野裕道(退)	2012年4月1日	聖愛教会囑託委嘱(任期1年)
司祭 バルナバ関 正勝(退)	2012年4月1日	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂囑託委嘱(任期1年)
司祭 バルトロマイ竹内謙太郎(退)	2012年4月1日	東京聖テモテ教会囑託委嘱(任期1年)

### 中部

主教 ペテロ渋澤一郎	2012年3月23日付	新生礼拝堂管理牧師の任を解く。
司祭 テモテ土井宏純	2012年3月24日付	新生礼拝堂管理牧師に任命する。
執事 ヨセフ石田雅嗣	2012年3月24日付	新生礼拝堂牧師補に任命する。
司祭 テモテ島田公博	2012年3月31日付	上田聖ミカエル及び諸天使教会主日勤務を解く。
	2012年4月1日付	稲荷山諸聖徒教会主日勤務を命じる。
執事 ヨハネ大和田康司	2012年3月31日付	定年により退職とする。
	2012年4月1日付	司祭テモテ野村潔のもとで名古屋聖マルコ教会において主日勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 ダビデ峰村春二郎	2012年3月31日付	定年により退職とする。
池住 圭	2012年3月31日付	名古屋学生青年センター及び愛知聖ルカセンター総主事の任を解く。
司祭 パウロ西澤誠太郎(退)	2012年4月1日付	司祭イグナシオ丁 胤植のもとで、稲荷山諸聖徒教会において囑託司祭として、勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 ヨシュア鈴木光信(退)	2012年4月1日付	司祭エリエゼル中尾志朗のもとで、三条聖母マリア教会、長岡聖ルカ教会、司祭イグナシオ丁 胤植のもとで、飯山復活教会、司祭テモテ土井宏純のもとで新生礼拝堂において主日勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 ダビデ相澤 晃(退)	2012年4月1日付	司祭アンブロージア後藤香織のもとで、名古屋



		聖ヨハネ教会、愛知聖ルカ教会、司祭マルコ 箭野眞理のもとで、豊田聖ペテロ聖パウロ教 会において主日勤務することを委嘱する。(任 期1年)
司祭 テモテ野村 潔	2012年4月1日付	名古屋学生青年センター及び愛知聖ルカセン ター総主事に任命する。
池住 圭 京都	2012年4月1日付	可児ミッション総主事に任命する。
<信徒奉事者認可> (上野聖ヨハネ教会)	2012年2月23日付 ルカ木村直史	
大阪		
司祭 テモテ内田 望	2012年3月18日付 2012年4月1日付	去る2月2日付の辞令を取り消す。 川口基督教会牧師、大阪聖パウロ教会管理 牧師の任を解き、堺聖テモテ教会牧師、聖ル シヤ教会牧師任命する。
司祭 ダニエル山野上素充(退)	2012年4月1日付	主教サムエル大西修のもと守口復活教会に おいて、嘱託司祭として勤務することを委嘱す る。(任期1年)
主教 ヤコブ宇野 徹(退)	2012年4月1日付	司祭アンデレ磯晴久のもと東豊中聖ミカエル 教会で、司祭ヨシユア原田光雄のもと大阪城 南キリスト教会及び聖ガブリエル教会で、嘱 託司祭として主日を中心に勤務することを委 嘱する。(任期1年)
司祭 ペテロ松山龍二(退)	2012年4月1日付	司祭ヨシユア原田光雄のもと聖ガブリエル教 会及び大阪城南キリスト教会で、司祭ペテロ 齊藤壹のもと大阪聖三一教会で、嘱託司祭 として主日を中心に勤務することを委嘱する。 (任期1年)
司祭 サムエル松岡虔一(退)	2012年4月1日付	主教サムエル大西修のもと富田林聖アグネス 教会で、司祭ヨシユア原田光雄のもと聖ルカ 教会で、嘱託司祭として主日を中心に勤務す ることを委嘱する。(任期1年)
司祭サムエル坪井克己(退)	2012年4月1日付	司祭アンデレ磯晴久のもと庄内キリスト教会 で、司祭ペテロ岩城聰のもと大阪聖パウロ教 会、司祭ペテロ齊藤壹のもと大阪聖三一教 会、嘱託司祭として主日を中心に勤務するこ とを委嘱する。(任期1年)
司祭 ヨハネ成田邦雄(退)	2012年4月1日付	司祭アンデレ磯晴久のもと庄内キリスト教会 で、司祭施洗者ヨハネ山本眞のもと芦屋聖マ ルコ教会及び西宮聖ペテロ教会で、嘱託司祭 として主日を中心に勤務することを委嘱する。

		(任期1年)
司祭 サムエル福田光宏(退)	2012年4月1日付	主教サムエル大西修のもと聖贖主教会で、司祭ペテロ岩城聰のもと川口基督教会で、司祭ペテロ齊藤壹のもと大阪聖愛教会で、司祭施洗者ヨハネ山本眞のもと西宮聖ペテロ教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 ヨハネ奥 康功(退)	2012年4月1日付	司祭フランシス・チョウ・ジョンピルのもと恵我之荘聖マタイ教会で、司祭テモテ内田望のもと聖ルシヤ教会及び堺聖テモテ教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 ウィリアムス竹内信義(退)	2012年4月1日付	司祭ペテロ齊藤壹のもと大阪聖愛教会で、主教サムエル大西修のもと聖贖主教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。(任期1年) 要請に基づき、主教サムエル大西修のもとプール学院チャプレンに任命する(大学勤務) (任期1年)
司祭 ヨハネ木村幸夫(退)	2012年4月1日付	司祭ヨシユア原田光雄のもと大阪城南キリスト教会で、主教サムエル大西修のもと高槻聖マリヤ教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。(任期1年)

### 九州

司祭 ビンセント原 寛(退)	2012年4月1日付	司祭フランシス堀尾憲孝のもとで、佐世保復活教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 デイビッド コフリン(退)	2012年4月1日付	司祭マルコ柴本孝夫のもとで、小倉インマヌエル教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 バルナバ壹岐裕志(退)	2012年4月1日付	主教ガブリエル五十嵐正司のもとで、福岡ベテル教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 パウロ濱生正直(退)	2012年4月1日付	主教ガブリエル五十嵐正司のもとで、福岡聖パウロ教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 ヨシユア文屋善明(退)	2012年4月1日付	九州教区諸教会を援けるため協働司祭として働くことを委嘱する。(任期1年)

### 管区

主教 ガブリエル五十嵐正司	2012年4月1日付	日本聖公会法規第10条第1項により、日本聖公会沖縄教区の管理主教を委嘱する。
---------------	------------	--

## 東日本大震災支援

「いっしょに歩こう!プロジェクト」  
仙台オフィスから ㊦

—1年が過ぎて思うこと—

特命担当主事 司祭 パウロ 中村 淳

東日本大震災の発生から1年が過ぎました。あの大きな出来事から1年が経った、と言うことがあったという間であったように思いますし、また振り返るときにはとてつもなく長い時間であったようにも思います。仙台で働く同労者(様々な支援団体の方々)の間では、3.11という言い方に抵抗を感じる人が少なくありません。3.11という記号化をするにはまだ早い、こんな意見が多くあります。わたしもそう思う一人です。

東北教区の被災地である教会では3月11日の主日礼拝を主日、レクイエム、震災から1年を覚える時、と多くのインテンションで行われました。特に新地町の磯山聖ヨハネ教会では植松首座主教、大韓聖公会からの二人の司祭をお迎えして、仮設の礼拝堂で50人余りが礼拝を行いました。磯山の信徒3人の遺骨も安置され、海に向かっての礼拝となりました。また、仙台基督教会ではご親族を失われた信徒の方々を含め120の方が集まりました。沿岸部の教会では悲しみを新たにする礼拝であったように思います。

この1年のあいだ、日本聖公会のとて多くの皆さんがそれぞれの方法で被災地、被災者をご支援くださいました。いっしょに歩こう!プロジェクトもそのお支えがなければ遂行することができなかったと思います。本当にご協力ありがとうございました。当初の物資支援活動からそれぞれのベースでプログラムを開始し、そのプログラムへ多くの方が参加くださいました。特にどのベースでも共通して行われているのが「お茶っこ」「お茶会」「カフェ」と言われる仮設住宅でのお茶のみプログラムです。もちろん、お茶を飲むだけが目的ではなく、お茶を飲みながら様々なこと

をお話しするのが目的です。お話をする、というよりもお話を伺う、というほうが正しいあり方です。定期的に回数を重ねるにつれ、お話の内容も変化しています。このお茶会への参加を通して多くの方と出会ったボランティアワーカーさんたくさんいらっしやることだと思います。

このお茶っことも各仮設住宅の自治会へその運営をお任せする、という動きが他団体では活発になっています。それは1年が過ぎ、それぞれの団体の活動が大きく変化し、撤退への道筋を整えようとする動きとも重なっています。「支援」という枠組みでは本当に正しい動きだと思います。しかし、わたしたち教会が行う支援の時にはどうなのだろう、という疑問も持っています。教会であろうとなんでであろうと「支援」が目的であれば撤退を見据えて引き継いでいく、ということはとても大切です。けれども私たちが行っていることは単なる支援ではなく「宣教」という視点が少しでも入っているならば、出会った人々とはかわり続けなければいけないのではないかと、という想いがあります。もちろん、さまざまな制約があることは理解しています。でも、お話を聞いてほしい方がいるならばそこへ行ってお話を聞く、ことにそれが被災というしんどい立場にいる方たちであればなおさらではないか、と思うのです。1年を過ぎてわたし達の支援活動の在り方がもう一度根本的に問われている、ということ強く感じています。この想いを多くの皆さんと分かち合い、お話合いができれば、と願っています。



ホームページ <http://nस्क.org/walk/>  
リニューアルしました。

## 東日本大震災から1周年を迎えて

2012年3月11日(日)

日本聖公会主教会

イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。

(ヨハネによる福音書 21 章 12 節)

東日本大震災から1周年を迎えた今日、日本聖公会に連なる全ての人たちがそれぞれの教会に集い、心を合わせて、今なお困難な状況下におかれている被災者のため、被災地の一日も早い復興のため、そして大震災犠牲者のために、祈りをお献げくださいますようお願いいたします。

1年前の今日、東日本を襲った大地震は、多くの家屋を倒壊させ、大地震によって引き起こされた津波は、東日本の海岸線を襲い、家屋や工場を押し流し、多くの尊い命を奪い去りました。津波に襲われた福島第一原子力発電所は、制御能力をすべて失うという最悪の事態に陥り、原子炉内の核燃料融解、原子炉建屋の水素爆発による破壊によって大量の放射性物質が空气中に飛散し、土や海、建物を汚染し、住民は避難を余儀なくされました。1周年を迎える今も、多くの被災者が恐怖と不安におびえながら、仮設住宅や避難先での生活を送っておられます。

この大震災に対して、日本聖公会は、大震災発生から1か月後、被災者支援のための方策と救援物資集積場設置を協議し、仙台に本部を置く、「いっしょに歩こう! プロジェクト」を設立しました。「いっしょに歩こう! プロジェクト」は、東北教区被災者支援組織と協働しながら、南北500キロ以上の、広範囲にわたる被災地域の主だった地点に拠点を設け、被災者支援、地域社会復興のための活動を開始しました。教区・教会・日本聖公会関係団体は、このプロジェクトの働きを支援し、今日まで、様々な活動を実施してきました。この活動のために捧げられました皆様からの祈り、献金、救援物資、ボランティアの働きなどに対して心から感謝いたします。

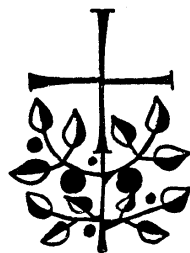
今回の大震災では、日本聖公会各教区・関係諸団体だけではなく、海外の聖公会からも、多額の義捐金が寄せられました。その義捐金は、大震災被災者支援活動のため、犠牲者のご遺族、家屋が全壊・半壊した日本聖公会関係者のお見舞いのため、被害を受けた教会・関係施設の復旧費用のためなどに有効に用いられております。

東日本大震災は私たちに多くの教訓を残しましたが、その中でも今私たちが避けて通れない問題があります。世界で唯一の被爆国である日本は、原爆の悲惨さと核兵器廃絶を世界に訴え続けてきました。その一方で、原子力の平和利用の名のもと、原子力発電所が日本各地に建設され、より多くの電力を消費することで、私たちは、快適で文化的な生活を享受してきました。しかし、東日本大震災は、原子力の平和利用を標榜した原子力発電の安全神話を粉々に打ち砕きました。今後は、原子力に依存するエネルギー政策の転換と、私たちのライフスタイルの転換が強く求められています。

二千年前、人生における師と仰いだイエスが十字架上で悲惨な死を遂げ、失意のどん底に落とされた弟子たちはガリラヤに行き、以前漁師であったペテロが先頭に立って、夜、漁に出かけます。しかし、魚は1匹も捕れませんでした。無力感と絶望感に襲われ、朝、陸に戻ろうとした時、イエスが岸辺でたき火を起し、焼いた魚とパンを用意して、弟子たちが岸辺に戻るのを待っておられたのです。弟子たちは、その人がイエスだとは気づきませんでした。イエスが示す場所に網を入れますと、おびただしい魚が網にかかりました。岸辺での、復活したイエスとの再会は、今までとは全く違った生き方を弟子たちにもたらしめました。復活のイエスは弟子たちに、どのような状態におかれても主は彼らを決して見放さず、生きるために必要なものを常に備えてくださることを示し、愛の絆で結ばれた人びとによる新しい世界を創造するよう、弟子たちに命じたのです。

東日本大震災から1年、大地震・大津波で打撃を受けた町々、村々では復興への槌音もまだまだかすかにしか聞こえてきません。そして放射能汚染地域の被災者には、いまだに解決への見通しは立っていません。被災した方々、また、身近な人を失った方々が穏やかな生活を取り戻すには、さらに多くの歳月と困難を伴うことになるでしょう。そのような苦しみの中にあっても、神様が一人お一人に寄り添って心と体をお支えくださり、生きる勇気と希望が与えられますよう切に祈ります。

東日本大震災1周年にあたり、私たち教会に集う者が、被災地での神様のお働きを担っていく者として、引き続き、被災者支援と地域社会復興のために、より充実した活動を続けていくことを改めて心に刻みたいと願います。







## 東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）の祈り

2012年3月11日 日本聖公会主教会

### 「東日本大震災1周年記念特祷」

この祈りは当日の礼拝において、当日の特祷に続く「第2特祷」として用いる。

苦し<sup>くる</sup>み<sup>なや</sup>悩<sup>ひと</sup>みのうちにある人びとを常に支<sup>つね</sup>えてくださる主よ、東日本<sup>ひがしにほん</sup>  
大震災<sup>だいしんさい</sup>の発生<sup>はっせい</sup>から1年のこの日、すべての逝<sup>せいきよ</sup>去<sup>しや</sup>者と被<sup>ひ</sup>災<sup>さい</sup>者を覚<sup>おぼ</sup>えて  
祈<sup>いの</sup>ります。

大震災<sup>だいしんさい</sup>によって世<sup>よ</sup>を去<sup>さ</sup>ったすべての人<sup>ひと</sup>が、慈<sup>いつく</sup>しみ深<sup>ふか</sup>い主<sup>しゅ</sup>のみ腕<sup>うで</sup>に抱<sup>いだ</sup>  
かれ、憩<sup>いこ</sup>うことができますように。

また、地震<sup>じしん</sup>と津波<sup>つなみ</sup>、放射能汚染<sup>ほうしゃのうおせん</sup>により、愛<sup>あい</sup>する人<sup>ひと</sup>を失<sup>うしな</sup>い悲<sup>かな</sup>しみと孤<sup>こ</sup>  
独<sup>どく</sup>のうちにある人<sup>ひと</sup>びと、離<sup>り</sup>散<sup>さん</sup>させられた人<sup>ひと</sup>びと、今<sup>いま</sup>もな<sup>よわ</sup>お弱<sup>ち</sup>い立<sup>た</sup>場<sup>ば</sup>に  
おかれてい<sup>お</sup>る多<sup>おほ</sup>くの人<sup>ひと</sup>びとを、その傍<sup>かたわ</sup>らに立<sup>た</sup>って支<sup>さ</sup>え<sup>さ</sup>ください。  
そして震<sup>しん</sup>災<sup>さい</sup>復<sup>ふ</sup>興<sup>こう</sup>のため<sup>ため</sup>のすべ<sup>すべ</sup>たの働<sup>はたら</sup>き<sup>き</sup>が、痛<sup>いた</sup>みの多<sup>おほ</sup>いこの地<sup>ち</sup>上<sup>じょう</sup>に  
希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>をもた<sup>も</sup>た<sup>た</sup>すものとな<sup>な</sup>りますように。

慰<sup>なぐさ</sup>め<sup>しゅ</sup>の主<sup>しゅ</sup>よ、わたしたちがこれら<sup>これら</sup>のこ<sup>こ</sup>とを憶<sup>おぼ</sup>え<sup>つづ</sup>続<sup>つづ</sup>け、困<sup>こん</sup>難<sup>なん</sup>を負<sup>お</sup>っ<sup>て</sup>  
生<sup>い</sup>きる人<sup>ひと</sup>びとと共<sup>とも</sup>に、主<sup>しゅ</sup>のみ跡<sup>あと</sup>に從<sup>したが</sup>って歩<sup>あゆ</sup>むこ<sup>こ</sup>とがで<sup>で</sup>き<sup>ま</sup>すよ<sup>う</sup>に、  
この祈<sup>いの</sup>りを主<sup>しゅ</sup>イエス・キリス<sup>な</sup>トのみ名<sup>な</sup>によ<sup>よ</sup>って願<sup>ねが</sup>い<sup>い</sup>た<sup>し</sup>ま<sup>す</sup>。

アーメン



## 東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）の祈り

2012年3月11日 日本聖公会主教会

### 「東日本大震災のための祈り」

この祈りと嘆願は、3月11日以降において、礼拝の代祷の中などで用いるために作成されている。以前から配布されている「祈り」および「嘆願形式の祈り」も今後とも用いることは出来る。

苦し<sup>くる</sup>み<sup>なや</sup>悩<sup>ひと</sup>みのうちにある人びとを常<sup>つね</sup>に支<sup>ささ</sup>えてくださる主<sup>しゅ</sup>よ、東<sup>ひがし</sup>日本<sup>にほん</sup>

大<sup>だい</sup>震<sup>しん</sup>災<sup>さい</sup>のすべ<sup>せい</sup>ての<sup>きょ</sup>逝<sup>しや</sup>去<sup>おぼ</sup>者<sup>いの</sup>と被<sup>ひ</sup>災<sup>さい</sup>者<sup>しや</sup>を覚<sup>おぼ</sup>えて祈<sup>いの</sup>ります。

大<sup>だい</sup>震<sup>しん</sup>災<sup>さい</sup>によ<sup>よ</sup>って世<sup>よ</sup>を去<sup>き</sup>ったすべ<sup>ひと</sup>ての人<sup>ひと</sup>（こ<sup>いつく</sup>とに—）が、慈<sup>いつく</sup>し<sup>ふか</sup>み<sup>ふか</sup>深<sup>ふか</sup>い  
主<sup>しゅ</sup>のみ腕<sup>うで</sup>に抱<sup>いだ</sup>かれ、憩<sup>いこ</sup>うこと<sup>いこ</sup>がで<sup>いこ</sup>きますよ<sup>いこ</sup>うに。

また、地<sup>じ</sup>震<sup>しん</sup>と津<sup>つ</sup>波<sup>なみ</sup>、放<sup>ほう</sup>射<sup>しゃ</sup>能<sup>のう</sup>汚<sup>お</sup>染<sup>せん</sup>によ<sup>あ</sup>り、愛<sup>あい</sup>する人<sup>ひと</sup>を失<sup>う</sup>い悲<sup>かな</sup>しみと孤<sup>こ</sup>

独<sup>どく</sup>のうちにある人<sup>ひと</sup>びと、離<sup>り</sup>散<sup>さん</sup>させられた人<sup>ひと</sup>びと、今<sup>いま</sup>もな<sup>いま</sup>お弱<sup>よわ</sup>い立<sup>たち</sup>場<sup>ば</sup>に

お<sup>お</sup>か<sup>か</sup>れて<sup>か</sup>いる多<sup>た</sup>くの人<sup>ひと</sup>びと（こ<sup>かたわ</sup>とに—）を、その傍<sup>た</sup>らに立<sup>た</sup>ってお支<sup>さ</sup>

え<sup>さ</sup>く<sup>さ</sup>だ<sup>さ</sup>さい。そ<sup>しん</sup>して震<sup>しん</sup>災<sup>さい</sup>復<sup>ふ</sup>興<sup>こう</sup>のため<sup>はたら</sup>のすべ<sup>いた</sup>ての働<sup>お</sup>き<sup>お</sup>が、痛<sup>いた</sup>みの多<sup>お</sup>い

こ<sup>ち</sup>の地<sup>じ</sup>上<sup>じょう</sup>に希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>をもた<sup>き</sup>らすもの<sup>き</sup>となり<sup>ぼう</sup>ますよ<sup>き</sup>うに。

慰<sup>なぐ</sup>め<sup>さ</sup>の主<sup>しゅ</sup>よ、わ<sup>お</sup>た<sup>お</sup>し<sup>お</sup>た<sup>お</sup>ち<sup>お</sup>がこ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>のこ<sup>お</sup>とを<sup>お</sup>憶<sup>おぼ</sup>え<sup>お</sup>続<sup>お</sup>け<sup>お</sup>、困<sup>こん</sup>難<sup>なん</sup>を<sup>お</sup>負<sup>お</sup>って

生<sup>い</sup>きる人<sup>ひと</sup>びとと共<sup>とも</sup>に、主<sup>しゅ</sup>のみ跡<sup>あと</sup>に<sup>したが</sup>従<sup>あゆ</sup>って歩<sup>あゆ</sup>むこと<sup>あゆ</sup>が<sup>あゆ</sup>で<sup>あゆ</sup>きますよ<sup>あゆ</sup>うに、

こ<sup>いの</sup>の祈<sup>しゅ</sup>りを主<sup>しゅ</sup>イエ<sup>な</sup>ス・キ<sup>な</sup>リス<sup>ね</sup>トのみ名<sup>な</sup>によ<sup>ね</sup>って<sup>ね</sup>お願<sup>ね</sup>い<sup>ね</sup>いた<sup>ね</sup>し<sup>ね</sup>ます。

アーメン

## 「東日本大震災のための嘆願」

司式者 くる なや 苦しみ悩みのうちにある人ひとびとを常つねに支さえてくださる主しゅよ、  
ひがしに ほんだいしんさい 東日本大震災のすべての逝せい去きょ者と被ひ災さい者を覚おぼえて祈いのります

会衆 しゅ 主よ、わたしたちの祈いのりをお聞ききください

司式者 だいしんさい 大震災によって世よを去さったすべての人ひと（ことに――）が、慈いつくし  
ふか しゅ み深い主しゅのみ腕うでに抱いだかれ、憩いこうことができますように

会衆 しゅ 主よ、わたしたちの祈いのりをお聞ききください

司式者 じしん つなみ ほうしゃのう おせん 地震と津波、放射能汚染により、愛あいする人ひとを失うしない悲かなしみと孤独こどく  
ひと りさん のうちにある人ひとびと、離り散さんさせられた人ひとびと、今いまもなよわお弱ちい立  
ば 場ばにおかれていおおる多ひとくの人ひとびと（ことに――）を、その傍かたわら  
た に立たって支さえきください

会衆 しゅ 主よ、わたしたちの祈いのりをお聞ききください

司式者 しんさいふっこう 震災復興のためのすべての働はたらきが、痛いたみの多おおいこの地上ちじょうに希き  
ぼう 望ぼうをもたらすものとなりますように

会衆 しゅ 主よ、わたしたちの祈いのりをお聞ききください

司式者 なぐさ しゅ 慰なぐさめの主よ、わたしたちがこれらのことを憶おぼえ続つづけ、困こん難なんを負お  
い ひと とも しゅ あと したが あゆ っいて生いきる人ひとびとと共ともに、主しゅのみ跡あとに従したがって歩あゆむことがで  
ます ますように

一 同 かみ 神よ、これらの祈いのりを主しゅイエス・キリストのみ名なによってお願ねが  
 いたします アーメン